

米ドル金利と新興国債券市場の 関係を考える

昨

年末のFOMCで3会合連続の0.25%利下げを実施し、FRBは政策金利レンジを3.50%～3.75%へと引き下げた。市場は2026年の追加利下げペースに慎重な見方を残しつつ、米国短期金利の方向として「低下トレンド入り」を意識する局面となっている。

このような中で、注目を集める市場の1つが新興国債券市場だ。2025年後半から、「米ドル安は新興国資産の追い風」という見立てが示され、資金シフトを見込む声も聞かれる。米ドル金利が新興国債券市場に与える影響について簡単に整理しておこう。

新興国の多くは、自国通貨だけで国際的な資金調達を行うことが難しい。このため、米ドル建てで借入れをするのが一般的。米ドルの金利低下は借入コスト、すな

わち財政負担の低下につながる。

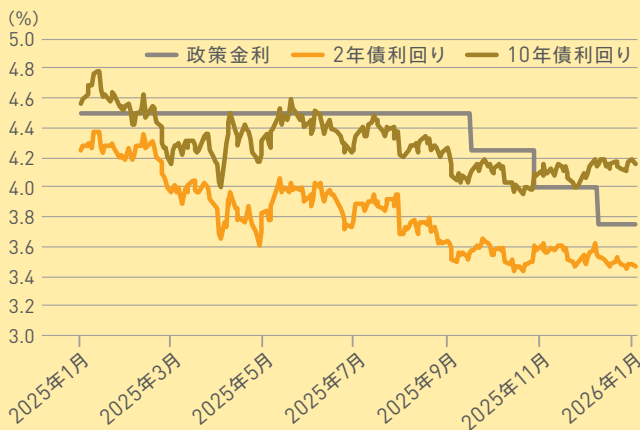
さらに、金利低下は債券価格の上昇をもたらす。既存の高金利債券が相対的に魅力を増すため、投資家の需要が高まり、価格が上がるのである。これにより、新興国債券市場全体の評価が改善する。

加えて、米ドル安や新興国通貨高が進むと、外貨建て債務の返済負担が軽くなり、財政リスクが低下する。通貨高は輸入コストの抑制にもつながり、経済の安定性を高める要因となる。

総じて、米ドル金利の低下は「借入コスト減」「債券価格上昇」「通貨高による財政健全化」という複数のルートで、新興国債券市場に追い風をもたらす。基本的なメカニズムを理解しておくことで、金利動向と投資機会の関係がより明確になるだろう。

M

■ 図表1 米金利の推移（日次、2026年1月5日まで）



■ 図表2 米ドルインデックスの推移（日次、2026年1月5日まで）



米ドルインデックス(DXY)とは

主要な通貨に対する米ドルの価値を示す合成指標で、米ドルの全体的な強さ、弱さを見るのに広く利用されている

モルガン・スタンレー 新興国債券オポチュニティ・ファンド

〈3ヵ月決算型〉(為替リスク軽減型) 予想分配金提示型 〈年1回決算型〉(為替リスク軽減型)
〈3ヵ月決算型〉(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型 〈年1回決算型〉(為替ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

新興国およびフロンティア諸国の公社債を実質的な主要投資対象とし、
利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

ポイント1

100ヵ国以上の新興国および
フロンティア諸国の構造改革に
着目して投資機会を発掘

ポイント2

取引可能な環境の実現に尽力する
オペレーションの専門性

ポイント3

ボラティリティ(価格変動性)を
抑えながら、
高いパフォーマンスをめざす

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。